

洋上の富士山と南伊豆の山々を望む

高
通

(家族向・一般向)

松崎町の南、雲見入谷から東に上つた高通山は、標高519mの低山ではあるが、山頂からは北に西伊豆の海岸線と富士山、西に御前崎方面、南に伊浜から変化に富んだ伊豆西南海岸が望め、期待以上のすばらしい景観が得られる。

高通山は高曾里山とも言われ、南伊豆町の地図には高幡山もある。

伊豆急下田駅から松崎・堂ヶ島行バスで50分、松崎で雲見入谷行バスに乗り換えて21分、雲見入谷で下車する。舗装された道を南に向かい入谷橋を渡る。

右にオートキャンプ場を見て露天風呂の先に登山口がある。常緑樹の茂るこの道は、かつて地元の人が山頂付近のカヤを刈るためによく歩いた道である。カヤは雲見の家々の屋根を葺くのに必要だったが、今はその必要がなくなったため歩く人がほとんどいない。

大雨が降るたびに掘られ、やや壅状になつた道に石コロが多く少々歩きにくい。

少しキツイ上り一方で、途中、「休憩所・山頂まで40分」の古い看板が

ある。

なおもキツイ上りを行くと、前方の視界が開け、小高い丸い山が見えてくる。目指す高通山？ではなくて北側にある山である。

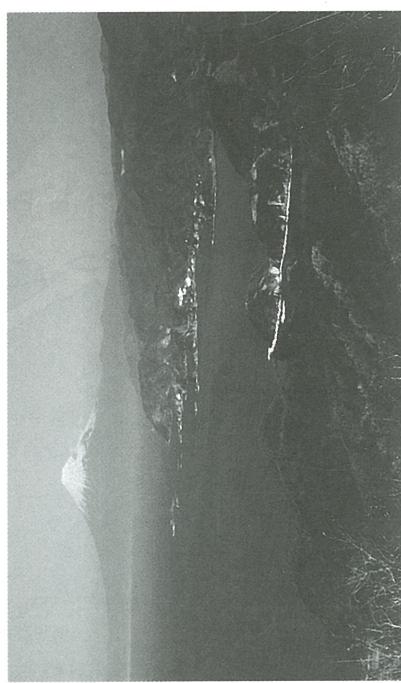
灌木の繁る急な道をジグザグと上る。少し道が荒れていて歩きにくいく所もあるが、一本道なので迷う心配はない。海岸性の特有の植物がたくさん見られる森で昆虫類も多い。

右に左にジグザグと上ると雲見方面の視界が開け、振り返ると先ほどの小高い山が望める。

やがて二つの大岩がある猿岩休憩所。山頂まであと200mである。左に上る。低い灌木林となり、右手に海が広がつて見えてくる。

アジサイの繁る道はやがてカヤの原となり、堂ヶ島から富士山方面が望める。植栽されたような桜並木の間を左に上り、大きな石を巻いた先で丁字路に出ると広い草原の北側展望所だ。

眼下に雲見の集落、雲見浅間山、千貫門が望め、北へ向つて延びる西伊豆の海岸線、富士山、右手には長九郎山から天城の山並みが見渡せる。



▲北側展望所より

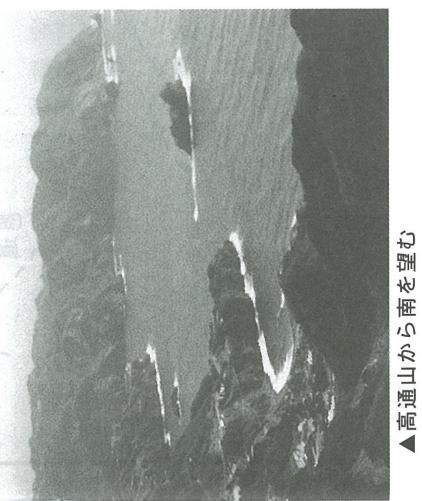
二等三角点のある山頂からは、さらに洋上にかかる日本平、御前崎、南アルプス、南に目を轉じれば波勝崎、伊浜、南伊豆の山並み、伊豆七島が望める。

山頂付近にも桜が多く、4月頃、麓から見ると山が白い帽子をかぶつたように見える。また、山頂一帯はヤマツツジの群生地で5月中旬には赤いツツジの花で埋まり、毎年、ヤマツツジまつりが開かれる。

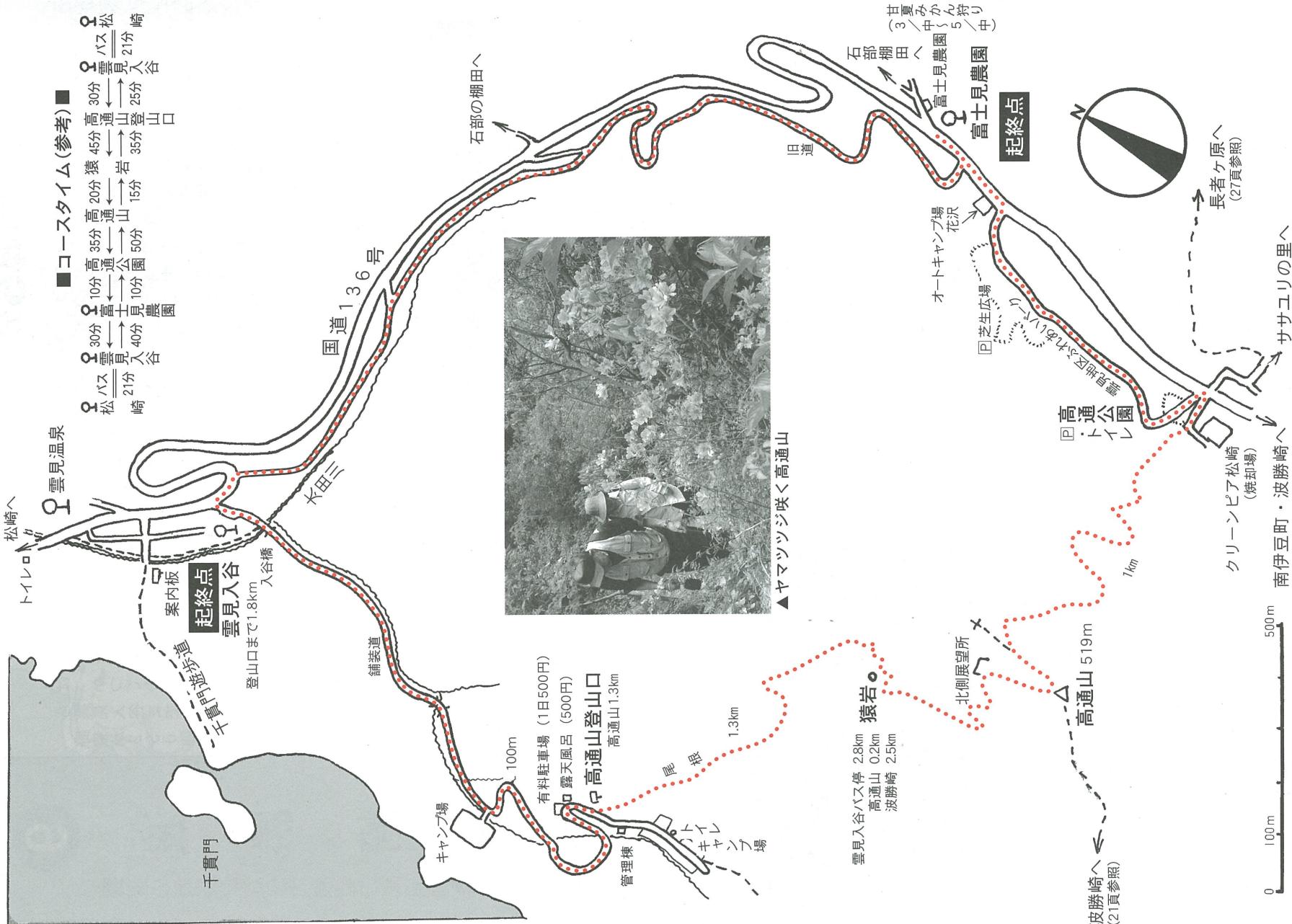
帰りは北へ直ぐ丸太の段を下る。かつてイノシシのスタ場経由のコトスがあつたが、今は新しく短縮コトスができている。

ウバメガシが繁る尾根の急な道を下るとクリーンピア松崎（焼却場）に出る。左下に高通公園があるので一休みしていこう。園内の遊歩道を下り花沢園地から国道に出ると才人トキャンプ場。国道を左に少しだれば富士見農園のバス停。国道に出ると甘夏みかん狩り（3月中旬～5月中旬）ができる富士見農園（4510717）がある。ここから松崎へのバスの便が悪いので旧道を雲見入谷まで歩いた方がよい。

雲見に戻つたら太田川沿いの道から西に千貫門遊歩道を歩き千貫門へ行つてみよう。千貫門は海にひときわ高くそそりたつ巨岩で真ん中に大きな穴が開き、その中を船がくぐり抜けることができる。この穴に夕日が落ちる様はまだみごと。北に見える高い山は鳥帽子山である。



▲高通山から南を望む



▲ヤマツツジ咲く高通山

